



プログラマに浸透中、GitHubでも標準フォーマット

Markdownドキュメントの書き方講座

第4回 文字装飾と本文中に埋め込んだコードを実行する機能

村井 和夫

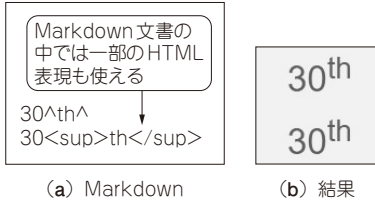


図1 上付き文字の表示例

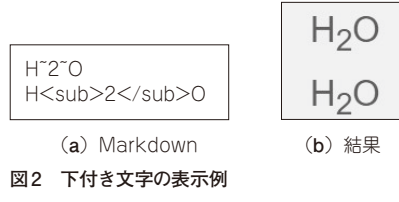


図2 下付き文字の表示例

文書の本文に文書の構造に関する情報も埋め込めるMarkdownが、プログラムの付属文書などで使われる場面が増えています。複雑な装飾はできませんが、HTMLなどに比べて書きやすいためプログラマには人気があります。

拡張機能で提供される基本的な文字の装飾

Markdownでは、さまざまな拡張機能が提供されています。TeXなどの既存の仕組みも取り入れられており、さまざまなグラフィカルな表現も可能です。しかし、エディタやビューアによってサポートされ方がかなり異なっています。

今回は、よく使われているVisual Studio Code(以降、VSCoDe)の拡張機能である、Markdown Preview Enhanced⁽¹⁾をインストールするだけでサポートされる機能のうち、文字の装飾などを紹介します。これら

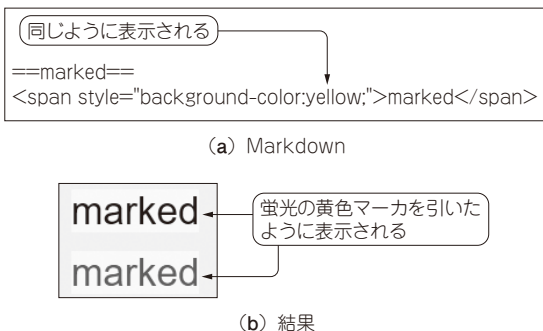


図3 黄色の蛍光マーカを引いたような効果

は、GitHubのエディタAtomのパッケージとしても提供されています。

● 簡単な文字装飾は一通り使える

文字の色を変える機能はMarkdownでは提供されていませんが、それ以外のかんりの表現が比較的素直に記述できるようになっています。

▶ 目次

文章のどこでも、“[TOC]”とだけ書いた1行を入れると目次を挿入できます。TOCはTable of Contentsの頭字語です。目次機能は基本的に、他のMarkdownビューアと互換性はありません。

▶ 上付き文字

Markdown表現を図1(a)に表示結果を図1(b)に示します。同じような表示になるHTML表現も併記しておきます。

▶ 下付き文字

Markdown表現を図2(a)に表示結果を図2(b)に示します。

▶ マーク

“==”で囲むと、蛍光ペンのようなマーク表示を行います。同じような表示になるHTML表現も併記しておきます(図3)。

▶ 文字の色を変える方法

これは、Markdownの拡張機能としては提供されていません。ただし、Markdown文書の中ではHTML表現が使えます。使いたいという要望が多い機能なので図4にHTMLを利用した例を示しておきます。

▶ 脚注

文書中で脚注を示す場合の、Markdown表現と表示結果を図5に示します。